

議 事 録

会議名	平成27年度第1回（仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会		
開催日時	平成27年7月1日（水）午後3時00分から午後5時20分		
開催場所	寒川町役場東分庁舎2階 第1・2会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>【出席者】</p> <p>< 委員 ></p> <p>梅村仁（委員長）、近藤祐幸（副委員長）、岸本優、斉藤正信、金子一茂、豊田大知、鈴木潔、佐藤清、矢野覚、豊田敏樹、大塚仁司、桑野靖男、前田久子、牧戸雅子</p> <p>< 事務局 ></p> <p>寒川町長：木村俊雄、企画政策部長：石井宏明、企画政策課長：深澤文武、企画行革担当副主幹：青木裕昭、同主査：吉田史、三澤忠広、吉田慎也、同主任主事：遠藤孝、鈴木俊輔</p> <p>【欠席者】なし</p> <p>※ 傍聴者11名</p>		
議 題	<p>(1) 委員長及び副委員長の選出</p> <p>(2) 議事録承認委員の指名</p> <p>(3) 寒川町人口ビジョン及び寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について</p> <p>(4) 基礎調査の状況について</p> <p>(5) 今後の策定スケジュール</p> <p>(6) 地方創生に関する意見交換</p> <p>(7) その他</p>		
決定事項			
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	

議事の経過	<p>○ 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 企画政策部長あいさつ（委員就任へのお礼） ◆ 委員委嘱状交付 ◆ 町長あいさつ ◆ 委員自己紹介 <p style="text-align: center;">＜所用により町長退席＞</p> <p>○ 議題（議事進行：委員長の選出まで事務局）</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選出</p> <p>（事務局）議題の(1)委員長、副委員長の選任についてでございます。</p> <p>委員長・副委員長については、「資料7」（仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会設置要綱の第5条において、「委員長、副委員長は委員の互選による」とされておりますが、委員長及び副委員長について、委員の皆様方からご意見等ありますでしょうか。</p> <p>（斉藤委員）この会議は本日初めての開催で、各委員さんとも初めてお会いするというところもあるので、事務局案があれば、それをお示し頂きたいと思いますが。</p> <p>（事務局）事務局案としましては、委員長には、文教大学の教授というお立場で、学識経験者でもあり、ご経験も豊かなことから、梅村委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。他にご意見があればいただきたいと思いますが。</p> <p style="text-align: center;">＜異議なしの声＞</p> <p>（事務局）それでは、委員長については、梅村委員にお願いしてもよろしいでしょうか。</p> <p>（梅村委員）承知しました。</p> <p>（事務局）それでは、梅村委員よろしくお願いいいたします。ここからは議事進行を梅村委員長にお願いいたします。委員長からごあいさつをお願いいたします。</p> <p>（委員長）文教大学の梅村と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>寒川町には1年ちょっとしか住んでおりませんが、あまりわかっておりませんが、静かな良い町だなと感じております。私の専門は、公共経営論、地域経営論を担当しております。前職は、23年間兵庫県尼崎市役所におりました。若いときは秘書課におり市長の鞆持ちをずっとしておりました。その後、産業振興課長、都市政策課長をして、4年ほど前に高知県立大学に転職しており、このような経験が寒川町のお役に立てればと考え、この話を受けさせていただいた次第でございます。また、今回の地方創生は、金</p>
-------	--

融機関の方々も委員に入られるとのことなので、新たなまちづくりに向けてのお声が聞けるのではないかなと思っております。私も一緒に勉強させていただきたいと思っております。2年間と長くなりますけれども、よろしく願いいたします。

(委員長) それでは議事を進めてまいります。引き続き、議題(1)といたしまして、副委員長の互選に入りたいと思っておりますけれども、先ほど、斉藤委員からのご発言がありましたように、委員の皆様それぞれ初めてお会いする形でございますので、副委員長につきましても、委員長同様に事務局案がございましたらお示しいただけたらと思っておりますがいかがでしょうか。

(事務局) 委員長から事務局案とのご提案がございました。事務局といたしましては、今回の取り組みの趣旨を踏まえまして、日頃からより良い労働環境の確立に向けご尽力をされております、湘南地域連合の近藤委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

(委員長) それでは、只今副委員長に決まりました近藤副委員長より、ご挨拶をお願いします。

(副委員長) 副委員長という大役を仰せつかりました、J X日鉱日石金属で委員長を務めております近藤と申します。委員長と申し上げましても昨年の10月に就任したばかりで、専任ではなく働きながらでございます。本委員会は各界からご参加いただいておりますので、私も様々な意見について勉強をさせていただきながら、少しでも良い町に発展できるように、委員長のサポート役として務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(委員長) 副委員長ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

(2) 議事録承認委員の指名

(委員長) それでは、引き続き議事を進めてまいります。

議題の(2)議事録承認委員の指名についてでございます。これにつきましては、大変恐縮ではございますが、会議ごとに名簿順ということでお願いしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

<異議なしの声>

(委員長) それでは、今回につきましては資料の委員名簿で確認しますと、岸本委員となっておりますので、岸本委員よろしく願いいたします。

(岸本委員) はい、わかりました。

(3) 寒川町人口ビジョン及び寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

(委員長) 続いて、議題(3)寒川町人口ビジョン及び寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定についてを議題といたします。資料に基づきまして事務局の説明をお願いいたします。

～事務局 資料番号：1を説明～

(委員長) 只今の説明について、各委員の方からご確認したいことございましたら、ご意見等含めましてよろしくをお願いいたします。

(委員長) では、私の方から1点だけ。法に基づきまして、総合戦略を作っていくんですけど。すでに町には総合計画がありまして、そことの整合はどのようにしていくのでしょうか。

(事務局) 町の総合計画は、平成24年度をスタートとして後期基本計画を策定しております。現在、平成27年度から3年間の後期基本計画第2次実施計画に踏み込んでいる状況でございます。総合計画は、1章の都市基盤から5章の産業まで、さまざまな分野別計画を策定しております。まち・ひと・しごと創生総合戦略との整合についてでございますが、基本的に総合戦略における戦術、具体的な取り組みにつきましては、総合計画に含めていく形で想定しております。町の総合計画では財政計画を作り、財源の担保性を図りながら推進をしておりますので、総合戦略の内容を盛り込んで総合計画とリンクをさせていく考えでございます。

(委員長) 各委員からはいかがでしょうか。

(斉藤委員) 直接、資料とは。これから検討し策定していくことは、十分理解はしているんですけども。現状課題として、さがみ縦貫道路ができ町が活性化される。このことによって、例えば、レンゴーさんの移転により企業が移転する。あるいは、トヨコムさんの跡地の問題だとか、政策として課題があると思うんですね。これらのことについて、どのような現状認識をしているのか、考えを聞きたいと思っています。また、日産工機さんの寮の跡地にスーパーができることから、地域の小売店が廃業しなければいけないなど、地域の活性化、商業活性化の面でもいくつか、問題を抱えている。それらも含めて、どのように対応していくか考えを教えていただきたいと思う。

(事務局) 今、お話があった以外にも、大きな課題が様々あると思っております。都市基盤的な問題から、子育てや高齢化などソフト的な問題などいろいろ対応しなければならない、いろんな問題があると思っております。これらにつきましては、後程ご説明いたしますが、基礎調査報告書としてSW

OT分析をして、寒川町の強み、弱み、機会、脅威を整理していきたいと考えています。本日は、数字が物語る内容の中でご説明をしていきたいと考えております。委員が言われますとおり、田端西、セイコーエプソンの跡地や三和さんなどによる課題等についても、後程ご提示できればと考えております。

(委員長) 議題(6)の中で、地方創生に係る意見交換というテーマがございませう。その中で、斉藤委員がおっしゃったような、各委員の課題認識などについてのお話をいただく場があればいいと考えております。

他に議題(3)についてのご質問等はございますでしょうか。では、今日は他にも説明資料がございますので、進めさせていただきたいと思ひます。

(4) 基礎調査の状況について

(委員長) 続きまして、議題(4)の基礎調査の状況につきまして、ご説明をお願いいたします。

～事務局 資料番号：2を説明～

(委員長) 資料2について膨大資料のご説明がございましたが、只今の内容について、確認したいことやご意見等はございますでしょうか。

(委員長) ご説明を聞いていた中で、地方創生として東京の一極集中の是正の解消とありますが、私、関西人なのでわかっていないのですが、東京圏とはどの辺までを指すのか。定義されておりましたでしょうか。

(事務局) 正確にはお答えができませんが、大都市圏として3大都市圏がございませうが、東京圏としては、寒川町、神奈川県が位置づけられると考えてございませう。

(委員長) ご意見等ございませうでしょうか。

(佐藤委員) いろいろ興味深い分析があり、あらためてこういう状況なのかなと認識した所もあるんですけども、一つだけ確認したいのですが、9ページの社会増減の分析で、平成18年に転出増が大きくなっているが特別な理由はあったんですか。

(事務局) 社会増減について、増として平成15年、減として平成18年に移動の動きがありますが、寒川町特有の状況についてはつかみ切れていません。現象の要因は掴まなければならないと考えてございませうので、今後分析を行っていきたく思ひております。

(金子委員) こういった、戦略策定は全国的に各市町村で検討を始めているわけですよね。実際に調査して、寒川町の強みと言われても、よその市町村の魅力が突出した場合は寒川町が負け組になってしまうかもしれない。その辺の想定はどの辺で設定をしておられるのでしょうか。

(事務局) 神奈川県内において、寒川町の検討の着手は早い方になっております。まだまだ手がついていない団体もございます。検討については、まず他市町村との数値の比較を行いながら、寒川がどこにいるのかを認識し、寒川の何を伸ばし、手を打っていくのか。何を補完するのか。ターゲットをどこに置くのかに係わってくると思っています。寒川町の特徴とは一体何かを踏まえながら、どこに手を加えていくのかが、今回の大きな論点になろうかと思っています。例えば、いくら手を加えても追いつかないものをいくら追いかけてもあまり意味がないので、どういったものを寒川町の魅力として着目し、それを伸ばしていくかが、計画策定の注目すべき点であると考えております。

(斉藤委員) 確かに、強いところ弱いところ、あるいは即効性を高めるためにどうしたらいいかと言う部分では、強いところをさらに強化していくことも大事だと思うんですね。説明では、今後細部について調査を加えるとの話もありましたが、例えば24ページ。私は小売業の立場でもあるんですけど、実態は資料のとおりだなと認識はしているんですけどね。一つ懸念しているのは、消費と所得のバランスがあると思うんですね。資料にある町外への流出は年齢によって大きく変わってくると思う。町内における購入の仕方についても、商業協同組合の立場で、過去3回にわたり実際の買物の状況について、スーパー、小売店でのお米、魚などの商品別にどこで購入しているかを調べたことがあります。まさにその結果、資料と同じような傾向が出ているんです。現時点では調査分析は行っていないと思うんですけども、年齢別所得階層はどうなっているのだろうか。寒川町の平均所得はどの位置になっていて、年齢分布から見たらどうなっているのか。それを見れば個人消費、あるいは購入の仕方が答えとして出てくると思うんですが、そのような分析をしていただけるのかどうか。

(事務局) ご提言ありがとうございます。実際に今回の小売業販売額につきましては、年齢や所得に関する調査まではできてはいませんが、事前分析の段階で、小売業の産業中分類までその状況を分析しております。例えば最寄品については、町内での購入がなされている状況がございます。逆に小売業の販売額に影響している、流出しているだろうと考えられるものにつきましては、買回り品が大きく外に流出しているのではないかなと考えてございます。年齢別及び所得階層別の調査が今回の分析とクロスしてできるかどうかにつきましては、検討させていただきたいと思っております。

(委員長) 買回り品の説明をお願いします。

(事務局) 説明が不足しております。最寄品につきましては、スーパー等で食料品など日常的に購入するような品目で、買回り品につきましては、衣

類や靴、家電など、毎日購入する必要性がない品目などが該当すると考えていただければと思います。

(矢野委員) 質問と言うより感想みたいなものですが、私も仕事で寒川町に来ていて、寒川町に定住をしていない人の一人です。この資料非常によくできているなと思っていて、これだけの分析は時間がかかったんじゃないかなと思っています。最後の60・61ページのところで、まちづくりの3つ目の「町民が日常生活を送るうえで不満足の原因となりうる」と、小売店などの商業施設が足りないことについては、確かにそうだなと思っていました。その次の機会として「寒川駅北口地区土地区画整理事業の進行に伴うまちの玄関口の魅力が高まったこと」と、私も寒川駅北口を利用しているものですけれども、夜の状況を見るとどうかなと思うところもありまして、玄関口と考えるのならば区画整理事業も、ものすごい労力が掛かった事業だと思っていますが、帰宅の時間、私の場合8時とか9時に見渡すと、見慣れてはきましたけれど、寂しいなと思ったことはありますので、本当に北口はまだ魅力が高まったのではないんじゃないかなと思いましたので、他のまちから人を呼び込めるような。私は地方銀行協会というところに務めていたことがありまして、地方銀行協会とは、地方銀行って64行あるんですけれども、64行の集まりがあるんですね。私が日本全国の人たちと付き合いがありまして、私が寒川支店長になりましたと、新聞にも載るんで、そうしたら寒川支店長おめでとうと言われたんですが、「寒川ってどこ」と言われたんですね。日本全国の人はまだまだそのぐらいなんですね。ただ、「茅ヶ崎の上だよ」と言うと北海道の人も、九州の人もわかってくれる。茅ヶ崎と比較するという意味ではないんですけど、もっと寒川町をアピールし、スポーツイベントでもなんでもいいと思うんですよ。何か発信するもの、人を呼び込めるものを、イベントあるいは施設、そこは政治の力も絡んでくるかもしれないけれども、北口に魅力あるものがあればクローズアップされますし、集客にも繋がってくると思いますので、本日はキックオフですので、「北口の魅力が高い」は疑問を持ったので、一言だけ言わせてもらいました。

(事務局) ご指摘は、まさにその通りだと思います。資料はSWOT分析としましては、「機会」と捉えています。これからのチャンスになろうかと思っています。確かに「魅力が高まった」との表現の中で、今の状態がベストかと言われると、そうではないと思っています。今後整備が進む中では、その魅力づくりを行っていかねばならないと。今商店会やいろんな方が参画して、いろいろな取り組みをやっていただいておりますが、大変な投資をして整備したわけですから、このタネ地を利用して、活

用しなければならないことから、町としては機会、チャンスとして捉えているところがございます。また、先ほど発信力についてご指摘がございました。これにつきましても、我々も痛感するところがございます。「寒川町です」と言うと、「どこですか。」、「寒川神社」と言うと、なんとなく解かる。また「隣町が茅ヶ崎市、藤沢市です」と言うと解かってもらえる。寒川町イコールとなる、対外的に発信していく魅力、この力が弱いんだろうなと思っています。寒川町特有の魅力づくりと、本日もご出席いただいているメディアの皆さんのお力をお借りしながら、どうやって発信をしていくかが、今後大きな課題になっていくと思っています。

(矢野委員) 確かに、私も資料にもある、ロボット産業特区、新幹線新駅やさがみ縦貫道路など、県内でも非常に大きい、ラストリゾート的な開発が多く、ポテンシャルが高い町だと思っています。なかなか手前に持つことが難しく時間の掛かるものだと思います。まずはやれることから始めて実績を作っていくことも大事なかなと思います。せっかくこの試みがスタートしたのであれば、何かを始めた方がいいと思っています。そこに参画できればいいなと思っています。

(事務局) まさにそのとおりです。物事には優先順位があり、効果を見ながら効果の高い、実現性の高いところから着実に進めていくのが実用的です。まさにこのまち・ひと・しごとにおいても同様だと思います。実現性の高いところからスピード感を持って取り組むことが、時代潮流が速い中で重要なことだと思いますので、只今のご意見を肝に銘じて進めていきたいと考えます。

(委員長) 他にいかがでしょうか。

(豊田敏樹委員) 私の方から1点だけ、感想というか、こういうことができればいいなという程度の話なんです。資料の18ページのところで、「仕事で寒川町へ通勤する人を呼び込んで定住を促すことが課題となる」について、私は自宅が茅ヶ崎市で、相模線で寒川町へ通勤をしている一人でございます。私自身は、茅ヶ崎市にマンションを平成元年に買い定住をしているんですけども、11,300人という人数が、他の市から通勤しているということで、この人たちを寒川町へ定住してもらったら、ひと対策として大きいと思います。これはまさに住宅政策に直結する問題だと思います。私ども金融機関は、住宅というと住宅資金の供給として、住宅ローンをどのように取り扱うかに直結すると思いますけれども。金融機関が個別に対応するのではなく、地方創生として、行政と金融機関がタイアップ、連携して、寒川町への住宅取得に魅力を感じるような、寒川に住むのは魅力があるんだと。先ほど地価が安いとの説明もありましたが、これは強みだと

思うので最大限利用しながら、なにか取り組めないかなと感じました。具体的な数字を出すのであればなんですけど、私ども寒川支店が平成26年度1年間に取り扱った住宅ローンが30件あり、そのうち寒川町の物件が何件あったのか、あらためてカウントをしたんですが、特殊要因もあったんですけども、わずか6件でした。他は茅ヶ崎、平塚、綾瀬が上位を占めております。私どもは全く同じ条件のローンを取り扱っていて、こういう結果が出ている状況がありますので、これからこの数字を拡大していくのが大きな課題なんだとあらためて認識しました。

(事務局) 貴重なデータをいただきまして、ありがとうございます。我々先程も申し上げましたとおり、子育て世代への支援や合計特殊出生率を上げる対応は重要ですが、ミクロ的に考えますと、寒川にお勤めして町外にお住まいの方を対象に、定住を促進した方が話は早いと思いますので、具体的にどのように転入促進を図っていくのか。当然受け皿となる住宅政策が必要となってきます。住宅政策につきましては、すでに昨年度から勤労者対策といたしまして、住宅取得奨励事業を展開し、転入された方に町の商品券をお配りする政策をとっております。件数自体は増えてはいるものの、まだまだ、拡充しなければならないかなと思っております。住宅の受け皿としましては、市街化区域の未利用地がまだございますので、こういったものをどう活用するかという事と住宅を取得する魅力、メリットをどうPRするか。先ほど周知不足ということもありましたので、併せて進めていかなければならないと思ってございます。今後、外部等策定委員会のほか、金融機関ヒアリングなどを行っていく中で、町にとってふさわしい住宅政策とは、どういったものがあるのかご相談をしていきたいと考えてございます。

(岸本委員) 先ほどの矢野委員の話を受けて、寒川の魅力を発信したいと思ってまして。特に花火もそうなんですけど、寒川に何も無いというイメージがあるんですよね。だからこそ、何が出来るかと思っていて。宣伝になるんですけど、7月25日に寒川駅前公園にて、バスケットのイベントをJ-COM湘南さんと共にやりまして、プロのバスケット選手を呼んで、町内外のミニバスの子どもたちを呼んで、プロと子どもたちとの交流を行います。将来は寒川町をバスケの町にしようじゃないかということで、J-COM湘南さんと我々民間と寒川町のバスケットボール協会できろいろ考えているんですね。お金をかけないで、せっかくあるものを使って、いろいろ出来ないかというところで、我々民間が動いているので、行政さんとか文教大学さんがコラボをしながら、お金をかけずに全国に発信できるのではないかと動いているので、このような取り組みをこの場で発信して、

皆さんにもご協力していただければとも、考えております。

(事務局) ありがとうございます。先程からお話しをしておりますが、分析の中でも20代後半の男性の方が転出されている状況がございます。これは、仕事に就いて通勤上の問題や職場の問題で転出される方がいるのかなと思います。若い人たちに選ばれるまちになるためには、そこにどんな魅力を置くか、日常の中に、どんな楽しみを置くかが大切だと思っております。岸本委員さんが言われました、例えばスポーツなどに特化するなど、外に発信するようなものを作っていかなければならないと思っております。そのためには、若い人たちの力を結集していただいて、いろんな案をいただきながら、地方創生の中で生かしていければなと思います。その時はお力をお借りしたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

(6)地方創生に関する意見交換

(委員長) 他にいかがでしょうか。すでに意見が出始めておりますので、議題の順番を入れ替え、本日の議題(6)の地方創生に関する意見交換に移らせていただいて、今のせっかくの流れを止めない形で進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いします。

(斉藤委員) これからいろいろ検討する中で、大きな話題性として取り上げていいなと思うのは。さがみ縦貫道や新幹線新駅の問題だとか、寒川の将来に対する活性化や夢があって。例えば、県庁が横浜市にあるんですが、横浜市、川崎市の周辺に県庁そのものが必要だろうか。ある意味では、寒川町は、位置、道路やJRにしても環境としては神奈川の中心と位置づけられる。寒川として県庁をここに持ってこようじゃないかと。いろんな施策を個々に検討することも大事だと思うし、またやっっていかなければいけないと思う。一つの柱として県庁を持ってこよう、極端だけれどもいいじゃないかと。県庁行政は、県の真ん中の寒川にあることが大事なのではないかと考えると、そのような働きかけ方をすることも必要かなと思う。

(委員長) 答弁は難しいと思うので、非常に大きな意見であったと思っております。最終的に今回の総合戦略を策定していく中で、例えば斉藤委員は、発想の転換をお求めだと思います。せっかくの機会ですので、今回はキックオフでございますので、まだご発言いただけていない各委員にお話を賜りたいなと思っておりますので、よろしく願いします。

(副委員長) あらためて、いろいろな方がいろいろな意見をお持ちだなと、参考になるなと感じました。今回の資料もわかりやすくまとめているところでもありますけども、やはり寒川町にいる人たちを対象にアンケートを取ることも一つだと思うんですけども、各近隣の市町村でもまち・ひと

・しごと創生の取り組みが始まるということで、寒川町は早い取り組みだと思えます。地域連合の中では、藤沢、茅ヶ崎とございますけれども、まだどこも開始をしていないということで、私がトップバッターとしてやってこいということであった訳ですけれども。近隣の市と連携をしながら、例えば、寒川町から転出した人の意見は茅ヶ崎で聞けるので、なぜ転出したのかなどの情報があれば。藤沢の魅力は、ごみの個別収集をしているからなど、いろんな話が聞けると思えます。町の中だけに留まらずに近隣とも連携して、意見をお互いに人の取り合いとなると、敵、味方の関係になってまいりますけど、地域全体で見ますと全体最適じゃないですけど、神奈川の県央、湘南地区と大きな枠で見れば、先ほど斉藤委員から話がありましたけど、県庁を誘致するなども魅力的なことでありますし、新幹線新駅やリニアの駅が橋本にできて、相模線が複線化されてなど、この地域にしてみれば海老名のららぽーとができたり、前向きに捉えれば、大きなひとの流れなり物の流れなどが劇的に変化していくような時代に入ってきたのかなと思えます。寒川町としては、魅力的なまちづくりをしていかないといけないと思えますけど、地域と協力してもっと他県から取り込むなど日本国内でひとを取り合ってしまう見方もあるかもしれませんが、生活しやすい環境を整え、せっかく寒川神社という参拝者の多い資源もございますので、宮山駅からの整備、参道の整備とか、わいわい市なども他県から好評との声も聞いておりますので、隣にバーベキュー場を作って、巨大なドックランを誘致するなど、いろんな人が買い物をして楽しめる魅力あるまちづくりが出来ていけばいいのかなと思えます。個人の意見でございます。

(委員長) ありがとうございます。続きまして、青年会議所の豊田委員

(豊田大知委員) 私も青年会議所活動で全国の方と話をすることがあるんですけども、実際に地方創生が話題となっております、今現在、成功している事例、例えば教育レベルを上げて日本一になったとか、医療に関して藤沢が一番良いなどの声を聞くんですね。そうすると親御さんは藤沢に住みたいですよ。人口を増やしたいと目的を掲げますと、やっぱり子どものために住みたいまちを作ったほうがいいのかと思います。正直、デパートを作ろうと言ったって、すぐには出来ないと思うんでね。まずは教育のレベルを上げようなどを第1優先で考えていただいて、寒川町が本当にできるのか、費用はどのくらいかかるのかというのを、今後調べていただいて、繋げてくれたらなと思っています。以上です。

(委員長) ありがとうございます。続いて、鈴木委員お願いします。

(鈴木委員) 私は農業者の代表として出席をしているんですけども、資料の中の「政策の企画実行にあたっての基本方針」に、従来の施策に縦割りと

あるんですけども、先月、都市計画審議会というのがありました。今月の8日には農業振興地域整備促進協議会というのがありました。片方は都市計画で国交省サイド、片方は農水省サイドということで、どちらにも委員として出ることになるんですけども、寒川町としていろいろ策定するにあたり、例えば、わいわい市、倉見新駅、田端西地区の市街化編入などいろいろあるんですけども、なかなか整合性が、何年か前に、県の公聴会で意見を述べさせていただいたんですけど、新駅を作るんだから、何も無いところを作るわけですから、その農用地指定を外してくれませんか、県とか関東農政局は、これが完全に決まらなければ外せない。またわいわい市にしてもそうですが、今の面積が限度なんです。これは農水省で農用地は保全していかなければいけない。だからこれ以上広げることはいけません。国が去年から農協改革等で農業収益の増進を謳っているわけなんですけども、我々が農協の理事会で話すのは、わいわい市は本当に売れています。売れているんですけど、お客さんの利便性から考えると通路は狭いし、レジは並ぶ方が多く、待ちきれなくてカゴに入れたまま帰ってしまう方も沢山いるわけですよ。そこでもっと広げられないかと、県や国に言っても許可がおりない。私も斉藤委員さんも観光協会の副会長なんですけど、東参道構想ということで、金子さんも商工会の方で役員をやられるんですけども、そういう面で町を活性化させるためにも必要かなと。どうしても最終的に決定するときには行政の許可があるわけで、我々が会議を重ねても規制ばかりで進まない。そう言うことも、皆さんの意見の中で町を活性化に向けて、2060年ですから私はそこまで生きていませんけれども、子や孫の時代が良い時代になればいいかなと。

また、最近思ったのは孫が産まれて、子育て支援の方が居られますけれども、本当に良くしてくださると、お嫁さんの兄弟が川崎に住んでいるんですけど、寒川町は小児医療が小6まで無料で、川崎市にはなくいいねと言われたとお嫁さんから聞いて、あらためて他から聞いて、寒川に良い点もあるんだと、ところが私の娘が藤沢に嫁いでおりまして、藤沢は中学生まで無料だと。自治体によるギャップがあるわけですが、医療費をタダにするには行政の方も経費が掛かるし、そう簡単にはいかないと思います。そういった魅力を作ることによって転入者も増えてくると思うし。青年会議所の方も居ますけれども、若い人に頑張ってもらいたいと思うわけですよ。我々農家も後継者が減っちゃって、青年部活動が縮小していかねばならないような時代なんです。その中で農用地は守らなければならぬんですけど、守るところは守る、町のために良いところは良いところとしていけたらなと思います。そうすれば、もっともって人も増えていく

んじゃないかなと思います。

(委員長) ありがとうございます。続いて佐藤委員お願いします。

(佐藤委員) 先ほどの基礎調査報告書のSWOT分析はクリアでわかりやすいし、これから住民の皆さんから意見を伺う際も、このような視点がわかりやすいなと思いました。先程、ポテンシャルの高い地域じゃないかとの話もありましたが、私もそう思っていて、さがみ縦貫道路、課題はいろいろありますけれど相模線の複線化、新幹線新駅、工業用地の開発等も計画されているという事で、ポテンシャルを見つけていく事が重要だと思います。同時に相模線にしても、今は単線ですが、寒川の中には駅が3つありますよね。近隣市で言うと綾瀬市に駅はないですよ。平塚も多分1つしかないんじゃないかなと。よく見ると非常に有利な状況もあると思いますね。そういうところをいろいろ探していく必要があるのかなと。それから自然環境でいうと、相模川に面していて中小の河川が流れ込んでいて、寒川町はかなり前から、水と文化をテーマとして取り組みを重ねてこられています。そういったところをアピールしても良いのではないかなと思います。もう1点だけ、すでに行政面でも広域的な取り組みを進めていただいていますけれども、特に茅ヶ崎や藤沢とのつながり、最近では海老名とのバス運行のつながりなど。例えば商業とか医療が近隣と比較すると相対的に不足していると、事実としてはそうかもしれませんが、全てフルセットで寒川町が揃えるのは難しいし、現実的ではない部分もあると思うんですね。現実に住民の方が、買い物面では、寒川には無いけども日用品は買えるから問題ないと、ちょっと大きなものは近くで買える、或いは医療機関も車で何分行けば医療機関にも恵まれているなど、少し広域的に見ていくと、住民生活の面ではオッケーな部分もあって、必ずしもフルセットで全てを考える必要はないのかなと感じました。感想で申し訳ありません。

(委員長) ありがとうございます。終了時刻を超えているんですけども、せっかくの機会なので。次に大塚委員お願いします。

(大塚委員) 今回、膨大な資料と、皆さんのお話を伺って、皆さん熱い思いがあるんだなという事で、頭が下がる思いでございます。私はこの委員の中で、一番寒川と直接関係のない、勤務先は平塚で住まいは横浜ですので、これから寒川町について勉強をさせていただいて、逆に外部の目から見た寒川の魅力みたいなものを一緒に考えさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(委員長) ありがとうございます。続いて糸野委員。

(糸野委員) 調査結果の説明をお聞きして、やっぱり住宅との相関関係、転入転出の部分と住宅で言えば分譲・賃貸があるかと思うんですけど、賃貸で

言えば空き室率の推移、分譲で言えば新築の着工数など、隣接する市町村の状況と、それらがどのように影響を与えているのか。例えば寒川に行きたいんだけど、良い家がないんだよなどの状況があるのか、逆に、住むところはいくらでもあるんだけど、やっぱり魅力を上げていかなきゃいけないのかなどが見えないところもあるので、データがあれば次回、拝見できたらいいかなと思います。私どもはケーブルテレビですので、この地域だけではなくて、近隣の市町村に放送は流れていますので、有意義な転入促進の情報とか、行政によっては、スタジオに職員の方が来て制度の説明をされたりするところもございます。ぜひJ-COMを使っていただきたいと思ひますし、メディアはJ-COMだけでなく、有料なメディア、無料なメディアなどいろんなメディアがありますので、フル活用されて推進されるといいのかなと思っております。以上です。

(委員長) ありがとうございます。では前田委員。

(前田委員) 先ほどもありましたが、自治体によって子育て支援が異なります。やっぱり予算によって、各市町村の医療費の補助内容も変わっていますが、ただ寒川町は割かしいのかなと、取り組みも早くやっていたいている方で。今、7か月になった赤ちゃんに絵本を渡すのも、近隣では寒川が一番始めにやり出しています。レベルというと変ですけど町の子育てについて、とても重点的にしていただいているのかなと思っております。先程リンクされているとの事だったんですが、子ども子育て会議と言うのがあるんですね。その中で、昨年度も小学校と幼稚園、保育園の若いお母さんたちに対してアンケートをしまして、今、寒川町にはどういったものが欲しいですかなどの、パブリックコメントもそうですが、アンケートを行っていますので、その結果もこのデータにリンクしていただいて、他の委員会でも同じようなことをやっていますので、それも含めて寒川の弱い点とか良さもわかってくるんじゃないかなと思います。

(委員長) ありがとうございます。最後に牧戸委員お願いします。

(牧戸委員) いろんな資料を見せていただいて、勉強することが沢山あったんですけど、子育ては小さいうちだけが子育てじゃなくて、今息子が高校生なんですけれども、高校生世代では、住んでいるまちのここが良いんだとか、ここに仕事に戻ってきたいとか、先を読めるようなものを子どもたちに提案、それこそ中学生・高校生になって、小さいうちの支援はもちろんなんですけど、その子たちが先を考える時に、最後はここに戻ってきたいとか、この魅力があるんだよと自分たちで感じたり言えるようなもの。未来、就職や学校を考えて外に出て行っても、戻ってこれるような魅力が寒川にあると良いなと思っております。今息子たちはすごく寒川が好きで、

	<p>ここで育っていることが好きらしいんですね。その先を身近に感じれるようなものになっていくと、出て行っても戻って来るという事も有りなのかなって。大学や専門学校だったりいろいろありますけど、そのワンステップを外で勉強してきて、そこから就職するなら、外、外じゃなくて、外に出てもまた戻ってこれるようなものがあると、これからは繋がっていくと感じました。</p> <p>(委員長) ありがとうございます。各委員からお話しを沢山いただきました。まだまだご意見があるかと思いますが、申し訳ございません、時間の関係上、意見交換を終わらせていただきたいと思います。</p> <p>(5) 今後の策定スケジュール</p> <p>(委員長) 続きまして、議題(5)の今後の策定スケジュールについて、ご説明をお願いいたします。</p> <p>～事務局 資料番号：1、3、4、5、6を説明～</p> <p>(委員長) 今日程についてのご説明をいただきましたので、よろしくお願いたします。</p> <p>(6) その他</p> <p>(委員長) 事務局から他にございますか。</p> <p>(委員長) 無いようでしたら、本日予定されておりました議題につきましては、これで終了となります。</p> <p>本日は各委員のご協力によりまして、なんとか第1回の委員会を終わることが出来ました。本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。それでは、以上をもちまして本日の会議は終了いたします。</p> <p>○閉会</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料番号1：寒川町人口ビジョン 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について</p> <p>資料番号2：基礎調査報告書</p> <p>資料番号3：寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた町民ワークショップ実施要領</p> <p>資料番号4：寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた「人口減少対策アンケート」実施要領 アンケート調査票</p> <p>資料番号5：寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る企</p>

	<p style="text-align: center;">業訪問事前ヒアリングシート</p> <p>資料番号6：地方自治体と地域金融機関の連携に向けて</p> <p>資料番号7：（仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会設置要綱</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p style="text-align: center;">岸本 優（平成27年8月4日確定）</p>